

## 第 1 2 回根研究集会に参加して

静川幸明

(京都府農業資源研究センター)

第 12 回「根研究会」の研究集会が、1999 年 11 月 6 日に滋賀県彦根市にある滋賀県立大学で開催されました。以前より職場の先輩であった京都農総研の大橋さんに 1 年ほど前から参加を誘われていました。また、本年度から新しい職場に異動となり、この場で得た新しい情報を今後の試験研究に役立てようと思い今回初めて研究集会に参加させていただきました。大橋さんからはアットホームな研究会であると聞いていましたが、当日の会場は多くの人による熱気に包まれており、口頭発表 9 題、ポスター発表 10 題、さらに特別講演 1 題と受賞記念講演 5 題という堂々たる内容でした。テーマも、根の突然変異体の解析などの分子生物学的内容や出液調査や酸素吸収量測定による根の活性調査、組織及び形態観察と根の分布の定量化についての研究、土壌の構造や呼吸、土壌細菌についての発表から養分吸収や新しい栽培法開発等の応用的研究にわたる非常に多くの内容を含んでおり、研究会というよりちょっとした学会という雰囲気でした。参加しているのも根について興味を持っている研究者ばかりなので、質疑応答も活発に行われ、高度な質問だけでなく初歩的な質問も気軽にできるなど、非常に良い印象を受けました。

私自身、イネの出液調査や堆肥施用時の水稻の品質変化、小豆に接種した VA 菌根菌が収量等に及ぼす影響について調査した経験があることから、東京大学の森田先生の水稻の出液についての発表と野菜茶試の中野さんの有機溶液土耕法についての発表、そして名古屋大の柴田さんの VA 菌根菌についてのポスターに特に興味を持ちました。森田先生の発表には将来の環境問題と食糧問題をにらみつつ、イネの根の機能性と今までの栽培及び収量特性を簡単な方法で比較・評価できるのだと言うことを認識させていただきました。また、中野さんの発表からは、産業廃棄物として問題視されている有機物を、堆肥という形以外の有機質液肥という形でも土壌に還元できるということを知ると同時に、長期間に施用した場合の有機物の蓄積や根と土壌の構造について興味を覚えました。柴田さんの発表では、一般のほ場では差がでにくい菌根菌の効果がわかりやすく説明してもらいました。収量や品質についての結果が出ていなかったのは残念ですが、落花生であれだけ生育に差ができれば、使い方によっては実用的にも有効ではないかという印象を受けました。

発表後の懇親会でも以前より一度話をしたいと思っていた、農研センターの小柳さんや名古屋大の矢野先生を始め、試験場や学生さん達と様々なことを話し、新しい知識や研究に対する良い刺激を受けました。そして、せっかく根の研究会に入ったのだから、早く根について何か発表ができるよう今の職場でがんばろうと思います。現在、毛状根と組織培養を用いて何かできないかと考えていますので、皆様のご指導よろしく申し上げます。

最後になりましたが、今回の研究会や懇親会等の有意義な時を過ごさせていただきました滋賀県立大の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。